

2月14日（火）金沢ニューグランドホテルにて、第1503回通常例会が開催されました。

松尾会長の挨拶では、まずトルコの大震災で3万5千人の被害に遭われた方へのお悔やみから入り、トルコとは1890年の座礁した船の船員を助けて以来の深い親交のある国です。少しでも力になればと思いますと述べられました。

本日のバレンタインにちなんで会長からライオンズのマークと今年のスローガンの入ったチョコのプレゼントがあり、次回の第2例会は選挙例会で少しずつ来期に向けて動いていること、桑島Lの縁で今日はNHK局長の小原さんの話を楽しみにしておりますと話されました。



次期役員候補者を発表する作田L

続いて掘岡Lから宮田正道Lへ、MJF 1000ドルメルビン・ジョーンズ・フェロー レベルピンが授与された後、清水Lが長年の功績により、終身会員が承認されました。



各種報告事項では石川県フィリピン友好協会へのランドセル贈呈式の件が稲葉Lより報告があり、また卯辰山写生大会表彰式が2月26日に行い、84名の応募から30名の作品を表彰しますと三浦Lより報告があり、ぜひ参加くださいとお願いがありました。



今回のゲストスピーカーは金沢NHK放送局長の小原美和様をお迎えして、演題は「技術革新とテレビ制作の舞台裏」の講話をいただきました。

1年半前に東京から赴任してきましたが、コロナ禍の中でなかなか地域の皆様と交流ができませんでした。その中でライオンズ様から講演の依頼をいただき感謝しております。

デレクター出身ですが、番組の制作、企画、演出、交渉、などの仕事があります。これまでドキュメンタリーを専門にしてきましたが、人に焦点をあてることや社会問題を取り上げてきました。

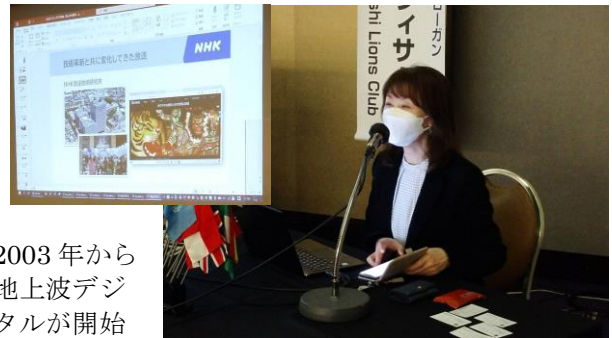
1953年にテレビ放送が始まり、技術の調査・研究し続けて、開花したのが平成に入ってからでした。89年のBSから90年代のハイビジョン、デジタル、

4K、8Kと技術が進歩してきました。そして、今はリアルに体験、体感、いつでもどこでも、あまねく&パーソナル化が傾向です。

技術革新の大きな変化はハイビジョンで、以前より6倍以上の情報量が処理され、高画質になり、いままでは肉眼では見えないけれど、テレビでは見えないことがハイビジョンによって見えるようになりました。また微細なものが撮影できるようにもなりました。

新しい技術はオリンピックに標準を合わせて開発しており、93年フランスのアルデービルオリンピックではハイビジョンの中継ができました。

スポーツ以外でハイビジョンをどう使うのかを検討している中で、雪の科学者のドキュメンタリー番組を制作しました。番組の中で、雪の結晶がハイビジョンできれいに見えるようになったことが記憶に残っています。



2003年から地上波デジタルが開始

となり、昔の白黒フィルムを掘り起こし、データ化してきました。2000年代の分岐点がアーカイブ映像のデジタル化です。

古いテープ（記録映像）を記録、再生、加工、保存、データベース化し、活用することは画期的なことでした。

膨大な資料映像を取捨選択し、貴重な資料をデータベース化することで新しい番組ができました。

2000年からスタートしたプロジェクトXです。まさに人間ドラマで、記録映像を活用することによって、複合的にまた重層的に歴史をひも解くことができました。（ヤマト運輸を扱ったプロジェクトXの映像が流れる）

金沢放送局でも新しい取り組みをしており、バーチャルリアリティ 移動型ペーパードームをイベント会場で披露しています。また、過去の災害の記録映像を防災イベントで利用しています。

テレビの世界も新しい技術と格闘しながら進歩しています。皆様のご協力がなければいい番組を作れないので、これからもよろしくお願いいたしますと講話を終えました。

続いて嶋崎テールツイスターが登場し、新日本紀行で4K出演しました、と報告があり、今回例会無事終了いたしました。